の名を與へることにした故ここに發表する。

Paraixeris denticulata Nakai forma *pallescens* Momiyama et Tuyama, f. nov ——*Lactuca denticulata* Max. forma *pallescens* Momiyama et Tuyama in sched. ——Flores pallide lutei ut in *Lactuca indica* Merrill. ——Prov, Musasi, in monte Tenranzan (Momiyama et Tuyama)

○アメリカフヨウ（新稱）（久内清孝）

東京都，大田區，鵜ノ木町，佐々木一郎氏の園に一芙蓉がある，之を研究して見たら *Hibiscus oculiroseus* Britt. に該當することが判つて來た，依て之にアメリカフヨウの新稱を與へる。本品は *H. Moscheutos* Linn の一形で，たゞ花の中心に大赤斑があるに過ぎないので，區別しなくてもよいと云ふ意見もあり，至極尤だと思ふが，こゝでは L. H. Bailey の園藝百科辭書に從つてをくが，この方法で行けば日本のムクゲなども數種に區別しなければならない。しかし，それはそれとして，次にこのフヨウの形狀を概記してをく。

多年性で數本叢立，地上莖は東京に於ては一年生，高さ約 110 cm. 綠色（淡紅花のものでは多小紅彩を帶ぶ）圓形，毛あり，徑約 1cm 莖頂に 3—4 花をつく。葉は有柄，柄長 5—8 cm，淡紅花のものでは上面紅色を帶ぶ。葉は廣卵楕圓狀，漸尖頭，基脚微に心狀，有齒緣（下部のものは三淺裂の傾向あり），上面の毛は漸次脫落するも，下面は灰白色で短絨毛滿布す。花は有梗，梗の長さ 4cm，有節。花は大形 12—3cm，完全に平開せず，花色は白乃至淡紅，中心は大赤斑あり，副蕚は線狀，蕚片は三角狀披針形，漸尖頭，花瓣は楔形に近し。蒴果はやゝ長みがゝつた球形，尖端突起し 9 月頃には關節より脫落する。種子倒卵狀球形表面にはフヨウの樣な毛なく小隆狀凸起の散布を見る。米國南部の産。種名は赤い目即ち花心赤斑點を有するを因む。

○オホエビネの品種タカネとアルマン（前川文夫）

エビネに似て豐艶な黃色の濃い花瓣があり，唇瓣も比較的幅が廣いものをふつうキエビネといつて居るが，牧野先生は植物學雜誌 3：448(明治 22 年)ではソノエビネの總稱を提唱され，牧野日本植物圖鑑： 685(昭和 15 年)では花色そのものにもエビネへの移行ありとしてオホエビネと改稱された。色々の型はあるがその中で鮮黃のものをエビネ栽培家はアルマンと呼ぶし，外花蓋片の外側が淡褐色のものを伊藤圭介翁はタカネといふ由をソノエビネの條下に記された。いづれも德川時代の園藝上で生れた名であらう。

語源について今迄書かれたものは見當らぬやうだが，小生の考へて見たところではタカネはその特徵の花蓋片が淡褐色即ち飴色をして居るところから飴の古語たかねを用ひたものではないかと思はれ，アルマンは全部豐かな黃金色であるところから all monarch と西洋人のいつたものが訛つて殘つたのではなからうか。